



## 2024年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年4月12日

上場会社名 株式会社トリプルアイズ 上場取引所 東  
 コード番号 5026 URL <https://www.3-ize.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 山田 雄一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 近藤 一寛 (TEL) 03-3526-2201  
 四半期報告書提出予定日 2024年4月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年8月期第2四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年2月29日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第2四半期	2,034	85.1	△10	-	33	-	29	-
2023年8月期第2四半期	1,099	△9.3	△33	-	△30	-	△401	-

(注) 包括利益 2024年8月期第2四半期 29百万円(-%) 2023年8月期第2四半期 △401百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第2四半期	4.05	3.97
2023年8月期第2四半期	△57.74	-

(注) 2023年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第2四半期	4,070	661	16.3
2023年8月期	2,302	332	14.4

(参考) 自己資本 2024年8月期第2四半期 661百万円 2023年8月期 332百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年8月期	-	0.00	-	-	-
2024年8月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,045	72.4	△96	-	△86	-	△87	-	△11.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) 株式会社ゼロフィールド、除外 -社

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (連結の範囲の重要な変更)」をご参照ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更等)」をご参照ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年8月期2Q	7,381,700株	2023年8月期	6,977,000株
2024年8月期2Q	-株	2023年8月期	-株
2024年8月期2Q	7,319,208株	2023年8月期2Q	6,949,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(連結の範囲の重要な変更)	11
(会計方針の変更等)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済の状況は、物価上昇や海外経済の減速による下振れが懸念される一方で、新型コロナウイルスの感染による景気へのマイナス効果が薄らぎ、景気は確実に持ち直しており、雇用の改善や賃金の増加が見られました。企業部門は利益の増加が続き、インバウンド需要も順調に回復している模様です。こうしたなかで、各企業の中長期視点からの設備投資への意欲が増している状況となっております。

当社グループの属する業界においては、2010年代後半から活発化していた各企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)関連の投資が継続して増加の傾向にあり、特にソフトウェアの分野において顕著であります。なかでもChatGPTを代表とする生成系AIが注目を浴びており、業務改善、事業改革に積極的な企業はすでに活用フェーズに入っております。これまでDXが進んでいなかった業種、業界からも生成系AIに対する関心は高く、その導入はより広がるものと見込んでおります。また、引き続き既存システムの刷新やデータ分析のAI化に対する期待は高く、今後もこの流れは加速していくと見られています。一方で、エンジニアの不足は深刻化しており、優秀な人材の獲得競争が激化しております。

そのような状況下、当社グループは、「テクノロジーに想像力を載せる」という経営理念の下、人にやさしいICTサービスの提供を目指し、当社グループ独自のテクノロジーで新たな時代への橋渡しとなるイノベーションを追求しております。GPU/データセンターに関する事業を行う子会社・株式会社ゼロフィールドとの事業シナジーを活かし、生成AI時代におけるAI開発力とコンピューティングパワーを併せもつ唯一無二のAIベンチャーとして、事業を推進してまいります。

当第2四半期連結累計期間においては、各企業のDXへの大規模な投資が加速する概況に照準を合わせ営業活動を行いました。展示会への出展やウェビナーを通じて、AI導入をゼロからサポートする月額制のサービス「AIラボ」を積極的に展開し、これまでDXで出遅れていた建設・製造・飲食業界を中心に受注が着実に進んでおり、今後の大きな収益源となることを見込んでおります。また、請負案件においても、当社AI技術へのニーズは高く、画像分析や需要予測といったAI開発では、当該期間において大型案件の受注や問い合わせが増えているのが特徴です。

AIZE関連では、白ナンバー事業者へのアルコール検知の義務化の改正道路交通法が2023年12月に施行されたことにより、AIZEシステムにアルコールチェッカーとの連携機能を搭載したサービスの受注が増加し、業績へ貢献いたしました。該当サービスに関する月額利用料については継続的な取引となるため、今後の業績拡大も見込まれております。さらに、従前から勤怠システムサービスを展開する企業と連携を図ってきた効果が現れるとともに、当第2四半期連結会計期間には新たにコールセンターサービスを提供する企業と連携することで、AIZEプロダクトの拠点ID数は確実に増加しております。

同時に、社内業務においても積極的に生成系AIを活用することで、開発工程の効率化、生産性向上も効果が見られ、この点でも成長を見込んでおります。

子会社である株式会社ゼロフィールドは、2024年1月のビットコインの現物ETF(上場投資信託)を米国証券取引委員会が承認するという追い風を受け、マイニングマシンの販売事業が好調に推移しました。さらに新規事業として、当社と共同でオンプレミスで利用できるAIサービスの開発を進めております。クラウドサービス上に情報保存することにリスクを感じている企業や公的セクターに対して、機密データをローカルで処理し管理するシステムを提供しております。併せて、当社従来のクラウドプラットフォームを活用することにより柔軟性の高いハイブリッドクラウドシステムも提供しております。当社のAIクラウドシステムと株式会社ゼロフィールドのGPUサーバーを併用することで、さらに競争優位性のあるサービスを実現していきます。

一方、エンジニア不足が継続する状況の中、先駆けてエンジニア人材強化のため先行投資を進めております。また、マイニングマシンの研究開発の過程で取得した暗号資産において、評価益24百万円が発生しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は2,034,585千円(前年同期比85.1%増)、営業損失は10,897千円(前年同期は営業損失33,428千円)、経常利益は33,599千円(前年同期は経常損失30,808千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は29,623千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失401,262千円)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より「AIソリューション事業」、「GPUサーバー事業」の2事業区分に、報告セグメントの利益の開示を四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失から経常利益又は経常損失にそれぞれ変更し、当社グループの経営状況をより適切に表示することとしています。

また、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

#### (AIソリューション事業)

当セグメントにおきましては、AI、IoT、DXに係る開発、WEBシステム開発やAIZE関連請負開発に関する売上高が堅調に推移しました。その結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高は1,337,718千円(前年同期比21.7%増)となり、セグメント利益は32,910千円(前年同期はセグメント損失30,808千円)となりました。

また、当セグメントのうち、SI部門における経営上の指標であるエンジニア単価については608千円(前連結会計年度比0.2%減)、エンジニア人数については1,521人月(前連結会計年度比53.9%の進捗)、AIZE部門における経営上の指標である拠点ID数は6,396件(前連結会計年度末比96.8%増)となりました。

#### (GPUサーバー事業)

当セグメントは、株式会社ゼロフィールドの子会社化によりGPUマシン販売・保守管理を軸とした事業として、第1四半期連結会計期間より開始いたしました。

マシン販売・保守管理に関する売上高が想定通り推移した結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高は696,867千円となり、セグメント利益は691千円となりました。また、当セグメントにおけるKPIである、マシン販売台数の実績は316台となりました。なお、当セグメントについては前第2四半期連結累計期間における実績がないため、比較分析は行っておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は、4,070,182千円と前連結会計年度末と比較して1,767,534千円増加しております。

流動資産は2,641,719千円(前期末比489,028千円増)となり、主な要因としては、商品及び製品が349,980千円増加したことです。

固定資産は1,428,462千円(前期末比1,278,506千円増)となり、主な要因としては、のれんが584,098千円、顧客関連資産が282,830千円、建物及び構築物が237,135千円それぞれ増加したことです。

当第2四半期連結会計期間末における負債の合計は、3,408,454千円と前連結会計年度末と比較して1,437,952千円増加しております。

流動負債は2,075,786千円(前期末比1,229,067千円増)となり、主な要因としては、契約負債が767,007千円、短期借入金が281,060千円それぞれ増加したことです。

固定負債は1,332,667千円(前期末比208,885千円増)となり、主な要因としては、繰延税金負債が117,989千円、長期借入金84,406千円それぞれ増加したことです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、661,728千円と前連結会計年度末と比較して329,582千円増加しております。主な要因としては、資本剰余金が970,019千円増加したことおよび資本金が670,060千円減少したことです。これらは、第三者割当増資等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ149,979千円増加したため、また減資により資本金を資本剰余金に820,039千円振り替えたためです。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、1,534,881千円と前連結会計年度末と比べ219,684千円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、273,005千円の収入（前年同期は54,548千円の支出）となりました。主な要因は、契約負債の増加による収入199,485千円（前年同期は3,526千円の減少）、のれん償却費の計上46,324千円（前年同期は1,419千円）、棚卸資産の減少による収入39,309千円（前年同期は25,685千円の増加）、税金等調整前四半期純利益の計上28,733千円（前年同期は税金等調整前四半期純損失382,212千円）、売上債権の増加による支出46,780千円（前年同期は36,176千円の減少）等であります。また、前年同期は減損損失の計上324,873千円等がございました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、894,153千円の支出（前年同期は352,130千円の支出）となりました。主な要因は、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出939,144千円（前年同期はなし）、投資有価証券の売却による収入53,285千円（前年同期はなし）であります。また、前年同期は投資有価証券の取得による支出213,285千円、無形固定資産の取得による支出125,626千円等がございました。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、401,463千円の収入（前年同期は21,345千円の収入）となりました。主な要因は、株式の発行による収入298,626千円（前年同期はなし）、短期借入金の純増加額163,774千円（前年同期は短期借入金の純増加額32,000千円）、長期借入による収入100,000千円（前年同期は30,000千円の収入）、長期借入金の返済による支出160,948千円（前年同期は長期借入金の返済による支出40,654千円）であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、前回予想(2023年10月13日発表)からの変更はありません。なお、今後の見通しにつきましては、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。連結業績予想につきましては、業績予想の修正が必要になった場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,754,566	1,694,885
売掛金	273,850	277,380
契約資産	51,545	99,111
商品及び製品	21,526	371,506
原材料及び貯蔵品	142	13,689
その他	53,687	189,165
貸倒引当金	△2,627	△4,019
流動資産合計	2,152,690	2,641,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,643	245,778
車両運搬具（純額）	0	0
その他（純額）	6,981	14,359
建設仮勘定	-	19,717
有形固定資産合計	15,624	279,854
無形固定資産		
のれん	2,559	586,658
ソフトウェア	9,800	8,149
顧客関連資産	-	282,830
その他	1,788	1,639
無形固定資産合計	14,148	879,277
投資その他の資産		
投資有価証券	92,880	39,595
長期貸付金	118	98,199
敷金及び保証金	18,910	91,698
破産更生債権等	-	1,925
その他	8,275	39,837
貸倒引当金	-	△1,925
投資その他の資産合計	120,183	269,330
固定資産合計	149,956	1,428,462
資産合計	2,302,647	4,070,182



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	83,174	89,669
短期借入金	240,000	521,060
1年内返済予定の長期借入金	240,442	317,140
未払金	118,367	124,440
未払法人税等	7,990	18,404
前受金	2,077	60,702
契約負債	17,718	784,726
賞与引当金	24,168	23,693
その他	112,780	135,949
流動負債合計	846,719	2,075,786
固定負債		
長期借入金	1,123,771	1,208,178
繰延税金負債	10	118,000
資産除去債務	-	6,488
固定負債合計	1,123,782	1,332,667
負債合計	1,970,501	3,408,454
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	720,075	50,015
資本剰余金	670,075	1,640,094
利益剰余金	△1,058,004	△1,028,381
株主資本合計	332,145	661,728
純資産合計	332,145	661,728
負債純資産合計	2,302,647	4,070,182



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
売上高	1,099,286	2,034,585
売上原価	800,686	1,365,118
売上総利益	298,600	669,466
販売費及び一般管理費	332,029	680,364
営業損失(△)	△33,428	△10,897
営業外収益		
受取利息	12	988
為替差益	-	3,026
デリバティブ評価益	-	3,093
暗号資産評価益	-	24,977
助成金収入	2,750	4,231
補助金収入	-	20,000
その他	790	1,225
営業外収益合計	3,552	57,543
営業外費用		
支払利息	932	10,897
株式交付費	-	1,322
支払手数料	-	82
その他	-	744
営業外費用合計	932	13,046
経常利益又は経常損失(△)	△30,808	33,599
特別利益		
固定資産売却益	-	1,175
特別利益合計	-	1,175
特別損失		
固定資産除却損	274	6,040
減損損失	324,873	-
ソフトウェア評価損	26,255	-
特別損失合計	351,403	6,040
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△382,212	28,733
法人税、住民税及び事業税	1,309	18,405
法人税等調整額	17,739	△17,811
過年度法人税等	-	△1,483
法人税等合計	19,049	△889
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△401,262	29,623
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△401,262	29,623

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△401,262	29,623
四半期包括利益	△401,262	29,623
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△401,262	29,623
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△382,212	28,733
減価償却費	13,677	25,276
減損損失	324,873	-
のれん償却額	1,419	46,324
ソフトウェア評価損	26,255	-
固定資産売却益	-	△1,175
固定資産除却損	274	6,040
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△377	303
賞与引当金の増減額(△は減少)	5,749	△12,247
受注損失引当金の増減額(△は減少)	1	-
受取利息及び配当金	△12	△988
為替差損益(△は益)	-	△3,026
デリバティブ損益(△は益)	-	△3,093
暗号資産評価益	-	△24,977
支払利息	932	10,897
売上債権の増減額(△は増加)	36,176	△46,780
棚卸資産の増減額(△は増加)	△25,685	39,309
仕入債務の増減額(△は減少)	△36,846	6,495
契約負債の増減額(△は減少)	△3,526	199,485
助成金収入	△2,750	△4,231
補助金収入	-	△20,000
株式交付費	-	1,322
支払手数料	-	82
その他	△14,634	11,497
小計	△56,684	259,248
利息及び配当金の受取額	10	8
利息の支払額	△979	△11,491
法人税等の還付額	354	1,090
助成金の受取額	2,750	4,231
補助金の受取額	-	20,000
手数料の支払額	-	△82
営業活動によるキャッシュ・フロー	△54,548	273,005
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△12,704	△5,820
有形固定資産の売却による収入	-	2,510
無形固定資産の取得による支出	△125,626	-
投資有価証券の取得による支出	△213,285	-
投資有価証券の売却による収入	-	53,285
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△939,144
保険積立金の積立による支出	△30	△6,819
その他	△483	1,836
投資活動によるキャッシュ・フロー	△352,130	△894,153

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	32,000	163,774
長期借入れによる収入	30,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△40,654	△160,948
株式の発行による収入	-	298,626
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,345	401,463
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△385,333	△219,684
現金及び現金同等物の期首残高	1,079,929	1,754,566
現金及び現金同等物の四半期末残高	694,596	1,534,881

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月29日付けで、PROCESS UNIT FUND 投資事業有限責任組合から第三者割当増資の払込みを受けたため、資本金及び資本剰余金がそれぞれ149,974千円増加しております。

加えて、2023年11月29日開催の第15回定時株主総会において資本金の額の減少を行うことを決議し、2024年1月5日付で資本金を820,039千円減少し、資本剰余金に振り替えております。

この結果、当第2四半期連結会計期間の末日において資本金が50,015千円、資本剰余金が1,640,094千円となっております。

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社ゼロフィールドの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当第2四半期連結累計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えることが見込まれます。影響の概要は、連結貸借対照表の資産合計及び負債合計の増加、連結損益計算書の売上高等の増加になると考えられます。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

(棚卸資産の評価方法の変更)

当社は棚卸資産のうち商品及び製品の評価方法について、従来、個別法による原価法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より、総平均法による原価法へ変更しております。

この評価方法の変更は、主に取り扱う商品及び製品の変更に合わせたものであります。従来は、案件毎に個別に商品を仕入れ、管理を行っておりましたが、第1四半期連結会計期間より、同一規格の商品及び製品を販売する案件が大多数を占めるようになったことから、期間損益計算及び棚卸資産の評価額の計算をより適正に行うことを目的に棚卸資産の評価方法の変更を行うものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

## (重要な後発事象)

(連結子会社における無担保社債 (SDGs推進私募債) の発行及び資金の借入)

当社は、2024年3月15日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社ゼロフィールド（以下「ゼロフィールド」という）が無担保社債（SDGs推進私募債）の発行と資金の借入を行うことを決議し、2024年3月25日にそれぞれ実施しております。

## 1. 社債発行及び資金の借入の理由

ゼロフィールドは、現段階において十分な現預金残高と資金借入枠を有しておりますが、さらなる事業拡大に向け財務基盤をより一層強固なものにするため、無担保社債（SDGs推進私募債）の発行及び資金の借入をいたしました。

なお、この「SDGs推進私募債」は発行額の0.1%相当額をりそな銀行を通じて発行企業の選定した団体に寄付する債券（私募債）発行の仕組みとなります。

当社グループは、持続可能な環境や社会の実現を目指し、今後も社会貢献とSDGsに関する様々な取り組みを行ってまいります。

## 2. 無担保社債の概要

(1) 引受先	株式会社りそな銀行
(2) 社債金額	50,000 千円
(3) 社債利率等	0.997% (変動金利・当初。表面利率他、期中手数料含む)
(4) 発行日	2024年3月25日
(5) 社債の期間	5年
(6) 担保等の有無	無担保・無保証

## 3. 資金の借入の概要

(1) 借入先	株式会社りそな銀行
(2) 借入金額	150,000 千円
(3) 借入金利	基準金利 + スプレッド (変動金利)
(4) 借入実行日	2024年3月25日
(5) 借入期間	5年
(6) 担保等の有無	無担保・無保証